

常緑針葉樹の人工林、間伐すれば広葉樹二次林よりも下層植生が多様

近年、森林を管理する上で生物多様性の保全も求められるようになりました。そこで今回は森林の様々な生物相のうち下層植生に着目し、森林の種類が下層植生に与える影響を調べるため、林業試験場の光珠内実験林で、いずれも林齢40～50年生の、間伐された常緑針葉樹の人工林、落葉針葉樹の人工林、広葉樹の人工林、広葉樹の天然生二次林、間伐されていない常緑針葉樹の人工林の5つの森林において下層植生の調査を行いました。

その結果、下層植生の多様性は、高いほうから、間伐された常緑針葉樹の人工林(写真-1)、落葉針葉樹の人工林(写真-2)、広葉樹の人工林(写真-3)、広葉樹の天然生二次林(写真-4)の順となっており、下層植生がほとんど無く多様性が最も低かったのは間伐されていない常緑針葉樹の人工林(写真-5)でした。これは、落葉樹の森林の林床はササに覆われて他の植生が生えにくいのに対し(写真-2～4)、常緑針葉樹の人工林では林床からササが衰退し(写真-5)、その後適度に間伐することで光が入りササ以外の下層植生が繁茂しやすい条件が整ったからと考えられます(写真-1)。

常緑針葉樹の人工林では広葉樹の天然生二次林よりも高木の多様性は低いのですが、今回の調査では、適切な間伐を行うことで下層植生の多様性は高くなるという結果になりました。今後は調査箇所数を増やし、林相と下層植生の多様性についてさらに詳しく調査したいと考えています。

(道東支場)



写真-1 常緑針葉樹の人工林(間伐有)



写真-2 落葉針葉樹の人工林



写真-3 広葉樹の人工林



写真-4 広葉樹の天然生二次林



写真-5 常緑針葉樹の人工林(間伐無)